

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-2-1 生涯を通じた学習と社会貢献活動の推進
---------	----------------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	社会教育課長 荒木 正秀	電話番号	0852-22-5910
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	社会教育関係団体活性化事業		
目的	(1) 対象	社会教育関係団体	
	(2) 意図	社会教育関係団体に対する補助金や表彰により、社会教育関係団体の活動の活性化を図る。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 少年団体活動の発展のため、少年団体に対し、優良団体を表彰する。 社会教育関係団体が実施する人材養成研修等への支援を通じて、社会教育関係者団体の活性化を図る。（県連合婦人会、第37回中国・四国地区公民館研究集会島根大会） 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	社会参加への意欲	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	連合婦人会研修参加者数	目標値	708.00	700.00	700.00	700.00
			実績値	646.00	674.00	676.00			
			達成率	92.30	96.30	96.60			%
指標名	社会参加への意欲	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		2.00	2.00	2.00	2.00	団体	
式・定義	表彰団体数	実績値	2.00	2.00	5.00	3.00			
		達成率		100.00	250.00	150.00		%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	717	824
うち一般財源(千円)	717	824

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 市町村教育委員会の推薦があった少年団体を県で表彰した。（H24:2団体、H25:5団体、H26:3団体） 平成26年度は、県連合婦人会研修事業（20万円）、第37回中国四国地区公民館研究集会島根大会（50万円）の2事業へ助成した。 連合婦人会の会員数は減少傾向にあるなかで、研修者の数は増加傾向にある。また、第37回中四国地区公民館研究集会では、2日間にわたり全体会と分科会を通じて、過去最高の1,653人（県内835人）が参加し、公民館の在り方について学んだ。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 表彰がメディアに取り上げられることで、活動のほけみになり、少年団体活動の活性化につながっている。 公民館研究集会へは、公民館等の社会教育関係者が、県内から835人が集まった（県内公民館職員数1,037人、H26.4.1現在）。基調講演や事例発表から公民館が果たす役割を見つめ直す機会となった。 連合婦人会の研修会は、現代的課題を取り上げるなど参加者のニーズにあった研修会とすることで、参加者が増加した。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 優良少年団体表彰については、限られた市町村からの推薦が近年多い。（H24：出雲市 2、H25：松江市、安来市、出雲市、浜田市、美郷町 各1、H26：松江市、出雲市、大田市 各1）
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 表彰制度の周知や、少年団体活動の掘り起しが十分でない。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 表彰対象となる少年団体活動の掘り起しができるよう、余裕のあるスケジュールで推薦依頼を出す必要がある。 各市町村担当者や派遣社会教育主事、各教育事務所の企画幹と連携し、研修等の機会を活用して、表彰制度の情報提供と活動の掘り起しをする必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 表彰制度の周知や少年団体活動の掘り起しを通じて、県内少年団体活動の活性化を図っていく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状」→「6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状」→「7. まだ残っている課題」→「8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--